

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 66.6%, 県 69.2%)

対県比

96.2%

学力定着実態調査 本年度正答率

本校 71.0%
全国 73.5%

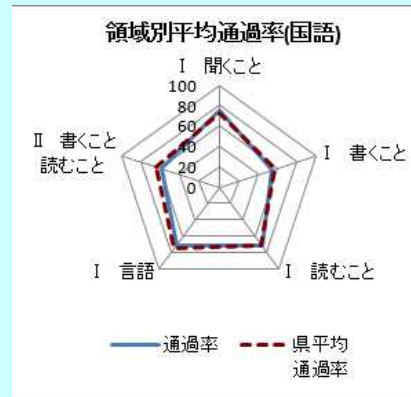
対全国比

96.6%

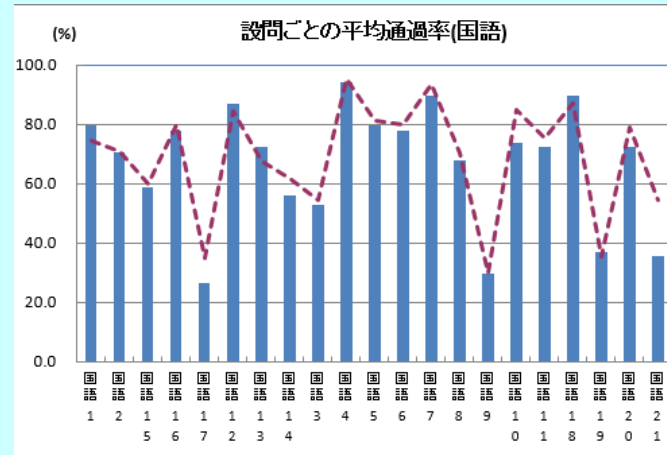
本年度の結果について

- 全体的な傾向
 - ・文章で説明したり、自分の考えを書いたりする問題の無解答率が高く、文章を書くことに抵抗がある。
 - ・問題文に示された条件を正確に読み取れず、条件に沿って文章を書くことが苦手である。
- 昨年度の課題への取組の成果または課題
 - ・基礎的な知識はある程度定着しているが、それを踏まえて内容を理解したり、条件に合わせて表現したりする力に課題がある。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題

本校 80.0%
全国 77.4%
県 78.0%

B問題

本校 74.0%
全国 72.2%
県 73.0%

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

97%

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】通過率 (26.5%) 問題四の3 (国語17) (叙述の仕方の確認・書くこと) 必要な主語を補うことができていない。問題文の条件をきちんと読んでいない。

【課題2】通過率 (35.3%) 問題五の4 (国語21)

(情報の取り出し・伝えたい事実の明確な記述・書くこと読むこと)

文章が長く複数の資料を活用する問題になると、正確に情報を読み取ることができず、条件を満たした答え方ができていない。

全国学力・学習状況調査

【課題1】正答率 (42.7%) 問題B1三

(表現の仕方について捉え、自分の考えを書く・言語についての知識・理解・技能)

比喩を用いた表現がどういった内容を表しているのかを読み取ったり具体的に説明したりする力が弱い。複数の条件に応じて記述する力が弱い。

【課題2】正答率 (58.7%) 問題B2三

(相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す・書くこと)

複数の資料の中から、問われていることに応じた必要な部分を見つけることができていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (35%) 実施後数値 12月2年 (%) 1月1年 (%)

・あらかじめ構成の条件を設定して文章を書かせる学習に取り組ませる。学習を通して考えたことについて書かせ、条件に合っているか添削し改善する。

【課題2】目標値 (50%) 実施後数値 12月2年 (%) 1月1年 (%)

・ワークブックや単元別ワークシート問題を使い、長文問題に取り組ませる。学習後、自分の解答と模範解答を比べさせ、問いの意図を正確に読み取らせる。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値 (55%) 実施後数値 12月3年 (%) 1月2年 (%)

・教科書本文や問題集などを活用して、比喩を用いた表現 (直喩・暗喩・擬人法) について取り上げ、どのような様子をたとえているのかを答えさせる。

【課題2】目標値 (70%) 実施後数値 12月3年 (%) 1月2年 (%)

・問題集やワークシートを活用して、複数の資料を読み比べたりするタイプの問題に取り組ませる。

※今後の改善計画については別紙

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 59.0%, 県 66.9%)

対県比 88.2%

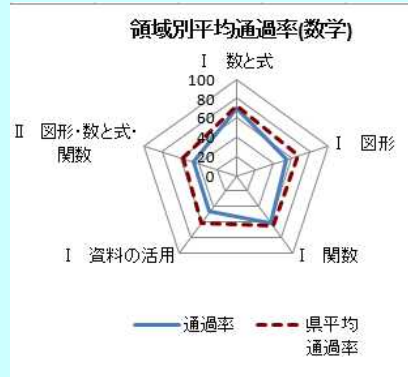
学力定着実態調査 本年度正答率

本校 63.6%
全国 68.3%

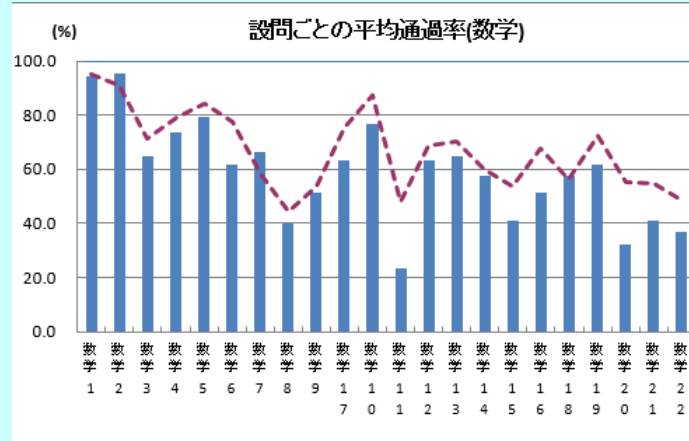
対全国比 93.1%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問11の平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題

本校 66.0%
全国 64.6%
県 64.0%

B問題

本校 48.0%
全国 48.1%
県 48.0%

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

97%

- 全体的な傾向
 - ・図形領域をしっかりと読み取り、式を作り、値を求めることに苦手意識がある。
- 昨年度の課題への取組の成果と課題
 - ・実施後数値は上がったが、定着という面ではまだ課題がある。
 - ・2年生3年生ともに図形の値を求めることに苦手意識がある。たくさんある公式から、求めたいものに応じて必要な公式を選べる力の育成が必要である。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】通過率 (23.5%) 問題6(1) (数学11)

柱体、錐体の体積の関係性や求め方を理解していない。また、わからない値を文字において考えることができていない。

【課題2】通過率 (41.2%) 問題12(1) (数学21)

比例、反比例の特徴を理解できておらず、2つの数量の関係性を正しく読み取ることができていない。

全国学力・学習状況調査

【課題1】正答率 (17.3%) 問題A4(3)

図形を想像し、公式を的確に選び、値を求めることができていない。

【課題2】正答率 (32.0%) 問題B2(2)

問題文に書かれていることから法則を見つけだし、式を作ることができない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (60%) 実施後数値 (%)

- ・授業内の小テストに図形分野の問題を取り入れ、体積の求め方や、表面積の求め方の定着を図る。
- ・南中タイムの中で、基礎的な公式を問う問題を取り入れる。

【課題2】目標値 (60%) 実施後数値 (%)

- ・一次関数の単元で比例・反比例を取り上げ、一次関数と比例の関係性について取り上げる際に、反比例が一次関数でない理由を説明するなどして、比例・反比例の特徴の理解を深める。
- ・南中タイムの中で、表やグラフから2つの数量の関係性を正しく読み取る問題を取り入れる。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値 (50%) 実施後数値 (%)

- ・毎時間の既習事項の復習で公式の確認を行う。また、類似問題の演習を行い、問題にあった公式を選択できる力の定着を図る。

【課題2】目標値 (50%) 実施後数値 (%)

- ・規則性を見つけて解いていくような問題を繰り返し演習させ、習得させていく。
- ・南中タイムで出題や宿題を用いて全員に定着させていく。

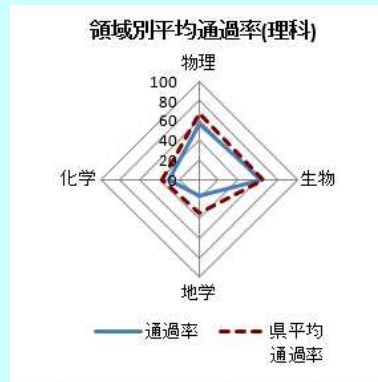
※今後の改善計画については別紙

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 41.9%, 県 50.8%)

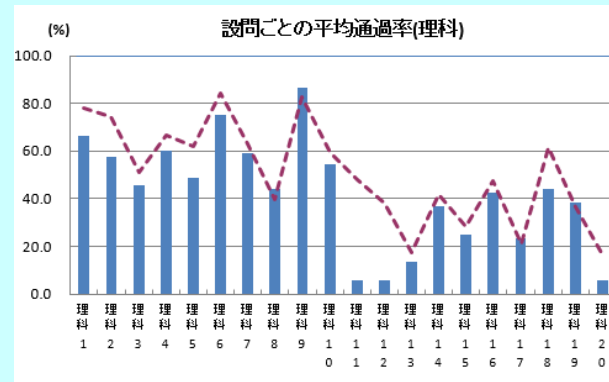
対県比 82.5%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



学力定着実態調査 本年度正答率

本校 54.9%
全国 61.1%

対全国比 89.9%

○全体的な傾向

- ・生物領域における「実験結果の予想」や「顕微鏡の操作方法」などの問題の通過率は県平均を上回る結果となった。一方で地学領域の「火山灰の観察方法」や「鉱物の名称」の問題の通過率が低く課題がある。
- ・「状態変化のグラフ」の通過率が低く、グラフを用いた実験結果の整理に課題がある。
- 昨年度の課題への取組の成果と課題
- ・昨年度の課題であった概念の理解については、県平均は下回ったが大きな差ではなかった。実験結果の予想やデータの整理については大きな課題があり、取組みを続ける必要がある。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】通過率 (5.9%) 問題5 (1) (理科11)

(自然事象についての知識・理解)

日常生活で馴染みが少ないものに対する興味や関心が低いため、「火山灰」に関する問いで多くの課題が見られた。実験方法や特徴等を理解させるための工夫が必要である。

【課題2】通過率 (5.9%) 問題8 (2) (理科20)

(科学的な思考・表現)

物質の性質から、実験の結果を予想し、その考えに至った理由まで答えることに課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (45%) 実施後数値 (%)

- ・授業において内容がより身近に感じられるように、実物を提示したり、実験を増やしたりする工夫を行う。
- ・南中タイムを活用し、実験した内容や学習したことを問う簡単な問題演習を実施し定着を図る。

【課題2】目標値 (25%) 実施後数値 (%)

- ・実験を行う前には、仮説を立てる時間を設け、実験に対する自分の考えを明確にさせる。また、結果を通して、自分の考えとの違いやその理由を考えさせる学習を多く取り入れる。

※今後の改善計画については別紙

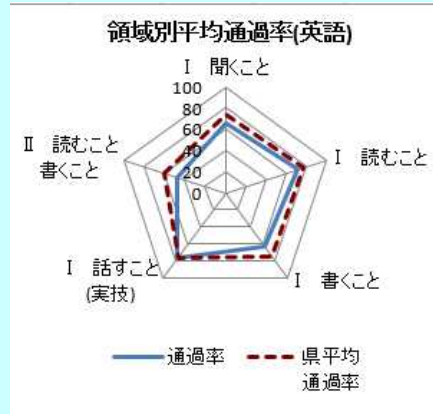
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 65.4%, 県 72.4%)

対県比

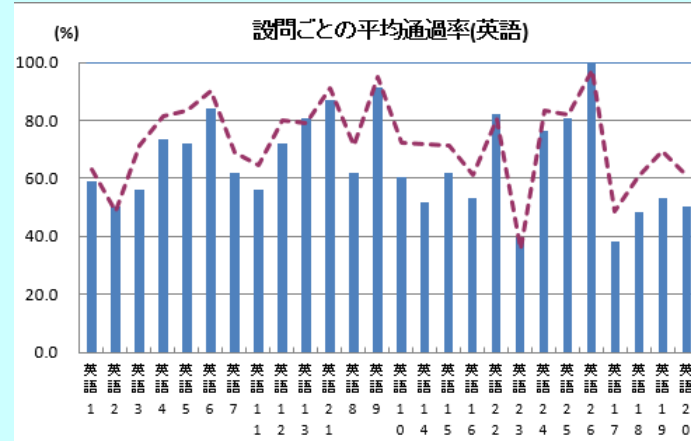
90.3%

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



○全体的な傾向

【タイプⅠ】

・通過率は 68.6%となっている。基本的な英語の決まりについての理解が不十分である。特に「書く力」に課題があり、「自分の考えや気持ちなどを読み手に正しく伝えるように書く」力を育成する必要がある。

【タイプⅡ】

・通過率は 47.4%となっている。県平均を上回った問題がなく、通過率が昨年を下回っている。
・会話文を読み、情報を基にした概要や要点を理解する能力が十分でない。

○昨年度の課題への取組の成果と課題

・英語を理解しようとするコミュニケーションへの積極性は身につけてはきているが、文法事項を理解できたとしても英文で表現する能力が十分でない。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題 1】 通過率 (51.5%) 問題 9 (英語 14)

「過去形」の理解が十分でないため、設問に合った適切な英文を考え書くことができない。

【課題 2】 通過率 (52.9%) 問題 1 1 (3) (英語 19)

長文読解の際に概要や要点を理解することができていない。そのため、適切な情報を読みとることができない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

基礎・基本」定着状況調査

【課題 1】 目標値 (55%) 実施後数値 (%)

・毎時間、帯学習として、ペアワークもしくはグループワークの時間を設ける。その際、生徒に必ず質問と応答のやり取りをさせ、文法事項の復習をしていく。また、定期的にかかせる時間もと確認していく。

【課題 2】 目標値 (55%) 実施後数値 (%)

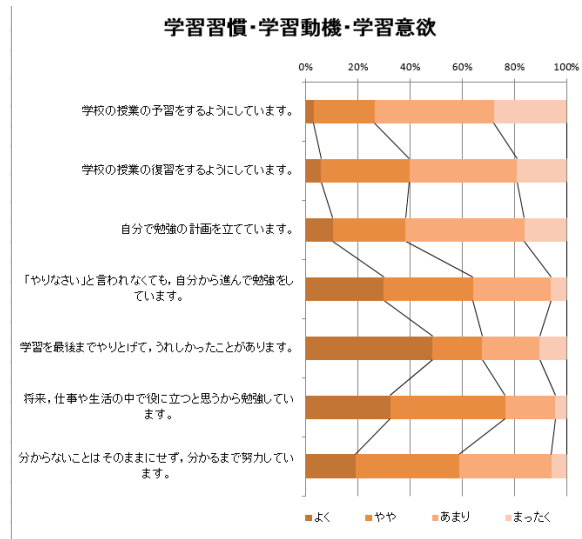
・教科書の内容理解の際に、1年次からの復習も取り入れ、本文の内容に答える活動を取り入れる。まずは、生徒自ら考える時間を十分に取、設問に合った答え方を文法事項も含め説明していく。

※今後の改善計画については別紙

質問紙調査

(「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査)

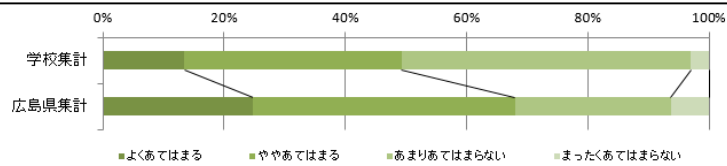
(1) 生活・学習



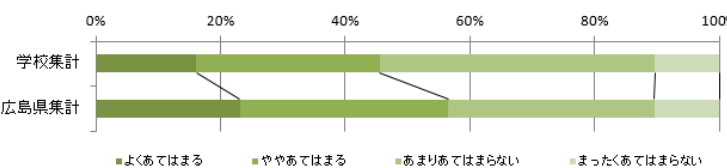
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「学校の授業の復習をしている」の質問項目における肯定的な回答の割合は39.7%で、昨年度よりも13ポイント下がった。このことから、家庭学習の意義や必要性を理解させ、学習習慣を定着させる取り組みが不十分であり、その改善に向けた取り組みを進める必要がある。	授業とつないだ家庭学習の提示 ○授業での、宿題の動機付け ○SHRにおける再確認、点検 ○職員室前ホワイトボードによる宿題内容の周知徹底 ○南中タイムにおける定着の確認及び学習サポートの推進 ○未提出者への「やりきらせる」指導の徹底 ○取り組んでいる学習の意義づけを授業やSHRで確認	全学年	60%	学校生活調査	10月 12月 2月		

(2) 教科

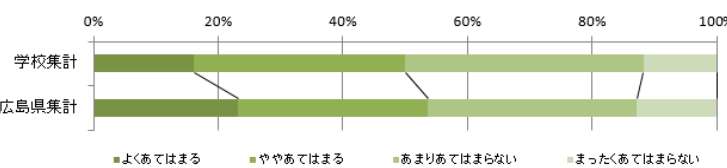
国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。



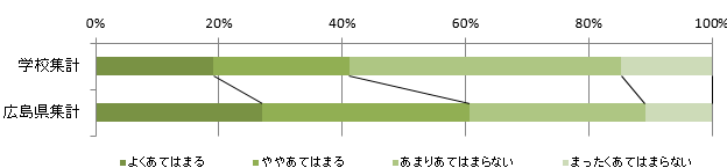
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。」の質問項目における肯定的な回答の割合は49.2%であった。これは普通の授業への取組姿勢とも関連がある結果であった。	○スピーチにおいて、項目を挙げたり言う順番を例示したりして、構成を示す。 ○スピーチの相互評価において、友達の話の中心は何だったか振り返らせる。	2	70%	スピーチ評価が満点に対して60%以上の生徒の割合	10月 12月 2月		
数学	「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。」の質問項目における肯定的な回答の割合は45.6%であった。理由をあげて答えることに課題がある。	○途中式から生徒に発表をさせる。 ○与えられた結果から理由を考えさせる機会を増やす。 ○記述式の問題を実施する。	2	65%	同様の質問を実施する。	12月 3月		
理科	「理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。」の質問項目における肯定的な回答の割合は50.0%であった。自分の考えを相手に説明することに課題がある。	○自分の考えを書かせる時間を確保する。 ○ペアによる意見交換を行わせる。 ○考えに対する理由をしっかりと考えさせる。	2	65%	質問を実施する。	12月 2月		
英語	「英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。」の質問項目における肯定的な回答の割合は41.2%であった。生徒自身が話す活動で自分を表現したり、意見を述べる活動が他の3技能と比較して少なかった。	○帯学習のペアワークやグループワークでの質疑応答で、自分自身について答える質問も取り入れる。 ○ALTとの面接を活用し、話す活動の機会を増やす。	2	50%	同様の質問を実施する。	12月 2月		

平成29年度 学力向上に向けた検証改善シート

中学校

尾道市立 因島南 中学校

1 課題

各種学力調査においては、国や県の平均程度または平均をやや下回っている状況が多い。学習規律や学力の定着状況における差が、学年で大きい傾向がある。課題のある教科や領域等だけでなく、学習規律等においても小中連携による連続性をもたせた指導が必要である。また、学力向上に関わっては、家庭学習時間が少ないことも課題としてあげられる。



2 めざす姿

確かな基礎基本を身につけ、主体的に考え、実践する生徒

3 めざす姿に向けた取組の具体

1学期の取組

- 学力調査の分析をすすめ、課題となる領域等を明確にする。
- 「基礎・基本」定着状況調査および全国学力・学習状況調査の類似問題や抜粋問題を中間・期末等の定期試験に取り入れ出題する。
- 小中連携を進める。中学校の生徒指導担当者が小学校を訪問し指導したり、中学校の行事に小学生を招き指導する。

検証

- 課題のある領域等の分析を終え、小中で共有する。
- 平均正答率や通過率を上回ることを目標にする。
- (小中で連続性をもたせ指導すべき項目を確認する。)



2学期の取組

- 課題のある領域等の学習プリント等を作成し、取り組ませる。
- 「基礎・基本」定着状況調査および全国学力・学習状況調査の類似問題や抜粋問題を中間・期末等の定期試験に取り入れ出題する。
- 小中連携を進める。中学校の生徒指導担当者が中心に小学校を訪問し指導したり、中学校の行事に小学生を招き指導する。

検証

- 南中タイム(確認テスト)で出題し、定着を図る。合格点数を設定し、全員が合格できるよう再テストを実施する。
- 平均正答率や通過率を上回ることを目標にする。
- (小中で連続性をもたせ指導すべき項目を確認する。)



3学期の取組

- 「基礎・基本」定着状況調査および全国学力・学習状況調査の抜粋問題や類似問題で検証問題を作成し実施する。
- 過去問に取り組ませる。
- 小中連携を進める。中学校の生徒指導担当者を中心に小学校を訪問し指導したり、中学校の行事に小学生を参加させ指導する。

検証

- 平均正答率や通過率を上回ることを目標にする。
- 過去3年分の問題に取り組む。
- (小中で連続性をもたせ指導すべき項目を確認する。)

4 取組の結果

1年生 市学力調査(4月)

(社会は2年生)

市学力調査

教科	国語(基礎)	国語(活用)	数学(基礎)	数学(活用)	理科(基礎)	理科(活用)	社会(基礎)	社会(活用)
結果 (対全国比%)	72.4 (97.7)	65.8 (92.4)	65.9 (93.2)	54.3 (92.0)	55.6 (90.1)	53.0 (89.5)	51.0 (93.4)	37.0 (89.2)

2年生 「基礎・基本」定着状況調査(6月)

「基礎・基本」

教科	国語 I	国語 II	数学 I	数学 II	理科 I	理科 II	英語 I	英語 II
目標値 (対県比%)	70.4 (100)	64.0 (100)	69.7 (100)	57.4 (100)	54.5 (100)	45.3 (100)	74.7 (100)	59.9 (100)
結果 (対県比%)	68.5 (97.3)	58.5 (91.4)	62.8 (90.1)	45.9 (80.0)	45.1 (82.8)	37.1 (81.9)	68.6 (91.8)	47.4 (79.1)

3年生 全国学力・学習状況調査(4月)

全国学力

教科	国語A	国語B	数学A	数学B
目標値 (対県比%)	81.9 (105)	76.7 (105)	67.2 (105)	50.4 (105)
結果 (対県比%)	80.0 (102.6)	74.0 (101.4)	66.0 (103.1)	48.0 (100)

「基礎・基本」定着状況調査検証問題(抜粋または類似問題)(1月)

教科	国語 I	国語 II	数学 I	数学 II	理科 I	理科 II	英語 I	英語 II
目標値 (対県比%)	(95.0)	(95.0)	(95.0)	(95.0)	(95.0)	(95.0)	(95.0)	(95.0)
結果 (対県比%)								

全国学力・学習状況調査検証問題(抜粋または類似問題)(1月)

教科	国語A	国語B	数学A	数学B
目標値 (対県比%)	(100)	(100)	(100)	(100)
結果 (対県比%)	()	()	()	()

全国学力・学習状況調査検証問題(抜粋問題)(12月)

教科	国語A	国語B	数学A	数学B
目標値 (対県比%)	(110)	(110)	(110)	(110)
取組の結果 (対県比%)	()	()	()	()

H29「基礎・基本」目標値

(対県比%)
100%

H29 全国学力目標値

(対県比%)
97%

